

2018年6月25日

公益財団法人 東京都医学総合研究所
精神行動医学研究分野 心の健康プロジェクト
主席研究員 奥村泰之¹ⁱ

子どもに対する抗精神病薬の処方前後における 血糖・プロラクチン検査実施率に関する研究

1. 背景

多くの国で、抗精神病薬ⁱⁱによる治療を受ける子どもが増えています。大人と同様に、子どもにおける抗精神病薬の使用は、糖尿病発症リスクの増大と関連します。こうした観点から、アメリカ合衆国やカナダの診療ガイドラインでは、子どもに対して抗精神病薬を処方する際、定期的に血糖検査を実施することが推奨されています。また、一部の抗精神病薬の使用は、プロラクチンⁱⁱⁱの上昇と関連します。高プロラクチン血症により、無月経、乳汁漏出や女性化乳房などの有害事象が短期間のうちに発現することがあります。しかし、こうした有害事象に関する兆候を、子どもは適切に訴えることが難しいこともあります。したがって、抗精神病薬を処方する際、血糖検査と同時に、プロラクチン検査も実施すべきと考えられます。

これまで、アメリカ合衆国で実施された研究では、抗精神病薬の処方を受けた子どものうち、どの程度、血糖検査を受けているかを把握する試みがありました。私たちの研究では、日本で初めて、子どもに対する抗精神病薬の処方前後における、血糖・プロラクチン検査実施率を明らかにすることを目的としました。

2. 研究方法

厚生労働省が構築している、レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) を活用して分析しました^{iv}。組み入れ期間 (2014年4月から2015年3月) に、抗精神病薬を新規に処方された、18歳以下の43,607患者を研究対象としました。それぞれの患者について、抗精神病薬の処方前30日から処方後450日の間における、血糖・プロラクチン検査の実施状況を評価しました。

ⁱ 2017年度に、医療経済研究機構が主体となり実施した研究です。

ⁱⁱ 抗精神病薬とは、主に統合失調症、双極性障害、小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性への治療に用いられる薬剤です。

ⁱⁱⁱ プロラクチンとは、脳の下垂体から分泌される乳汁分泌作用や妊娠維持に関する働きをするホルモンです。

^{iv} 厚生労働省は、審査支払機関が保有する全保険医療機関からの電子レセプト等の提供を求め、レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) を構築しています。

3. 研究結果のポイント

- 新規に抗精神病薬の処方を受けた 43,608 名のうち、抗精神病薬の処方前に検査を受けた患者は、血糖では 13.5%、プロラクチンでは 0.6%でした (下表の①ベースライン期)。
- 450 日間にわたり抗精神病薬の処方を継続的に受けていた 10,378 名のうち、4 回の時期すべてに検査を受けた患者は、血糖では 0.9%、プロラクチンでは 0.1%以下でした (下表の④10~15 か月期)。

表：血糖とプロラクチンの検査率と定期検査率

検査時期	患者数	血糖		プロラクチン	
		検査 (%)	定期検査 (%)	検査 (%)	定期検査 (%)
①ベースライン期 (処方前 30 日~処方日)	43,608	13.5	—	0.6	—
②1~3 か月期 (処方後 1~90 日)	20,370	10.8	2.3	1.1	0.1
③4~9 か月期 (処方後 91~270 日)	12,964	15.7	1.3	2.1	≤0.1
④10~15 か月期 (処方後 271~450 日)	10,378	15.6	0.9	1.9	≤0.1

4. 本研究から得られる示唆

- 本研究では、抗精神病薬の処方を受けた子どもが、血糖検査やプロラクチン検査を受けることは稀であることが示されました。
- これらの検査実施率が低くなる背景として、抗精神病薬治療の一環として血糖検査やプロラクチン検査を実施する必要性が十分に認識されていないこと、採血に人手と時間を要すること、メンタルヘルスに関する相談の場で子どもや保護者が採血を想定しておらず嫌がること、などがあります。また、採血を苦痛として通院が阻害されてしまうと、子どものメンタルヘルスを診療できる医療機関が少ないため、医師が慎重にならざるをえない状況があります。
- かかりつけ医が検査を実施して、その結果を、抗精神病薬を処方する医師と共有する体制を構築することも、解決策としてあると思われます。
- すなわち、抗精神病薬治療の一環として必要な検査を周知することに加えて、子どものメンタルヘルスを診療できる医療機関を増やし、かかりつけ医との診療連携を強化する、などの子どものメンタルヘルスに関する医療体制に対して総合的観点から解決が求められます。

書誌情報	奥村泰之 (医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究部/東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野) 宇佐美政英 (国立国際医療研究センター 国府台病院 児童精神科) 岡田俊 (名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科)
著者名 :	齊藤卓弥 (北海道大学大学院 医学研究院 児童思春期精神医学分野) 根来秀樹 (奈良教育大学大学院 教育学研究科 教職開発講座) 辻井農亜 (近畿大学 医学部 精神神経科学教室) 藤田純一 (横浜市立大学附属病院 児童精神科) 飯田順三 (奈良県立医科大学 医学部 看護学科 人間発達学)
標題 :	Glucose and prolactin monitoring in children and adolescents initiating antipsychotic therapy
雑誌名 :	Journal of Child and Adolescent Psychopharmacology
DOI :	https://doi.org/10.1089/cap.2018.0013